「伝えたい まどかのこと」 ～訪問サービス編～

＊Ａさんと私のやりとり＊

（スタッフ／近藤理恵）

Ａさんは中重度の認知症があります。ある朝の訪問。

「おはようございます。まどかです」と、声を掛けても返事はありません。

「誰か来た！寝ているとことに入ってきて何よ！頼んでないわよ！帰ってよ！」

布団を頭まですっぽりかぶり寝ている Ａ さん。さあ…どうしよう…。様子を見ながら何度か声をかけてみるのですが、背中を向けさらに布団の中にもぐり込み、なかなか顔を見せてはくれません。Ａ さんは、甘い物や歌が大好きなのでコーヒー牛乳を用意して、声をかけながら痛いという足をさすってみたり、「可愛いベイビ～ハイ、ハイ、」と歌ってみたりしながら、布団から顔を出してくれるのを待ちます。

「もう、うるさいなー！何よこれ！誰が濡らしたのよ！私は知らないから！」

ビッショリ濡れたシーツを見てご立腹。「そうよね、冷たかったでしょう」と話をしながら、体を拭き、着替え、シーツ交換をします。

「何よそれ！そんなの知らない！」

朝のお薬は、息子さんの子供の頃の話をしながら一口。歌をうたってまた一口と、なんとか飲んでいただきました。

「♪カラスの赤ちゃんなぜ泣くの～♫」

まどかに向かう車の中では歌がでるほどにご機嫌の Ａさん。まどかに来てからも大好きな歌をうたっていました。

＊思い通りには・・・＊

（スタッフ／権田歩）

訪問サービスでも色々なエピソードがあります。

「待ってま～す」と電話があったのに着くと出てこないとか、なかなか起きられないとか、その利用者さんそれぞれのペースがあり、「今は着替える必要はないの」など、こちらの思っている通りにはまずいかない、と思っても良いかもしれません。

まどかに来所されている時とは違って、自宅はその方にとってのフィールドですから、その中に入っての“行い”はなかなか難しい事です。

でも、まどかでは見ることのできない“その人となり”にふれることができ、その方に合った対応を考えることが醍醐味、楽しさのひとつでもあります。